



淡路が生んだ偉人

立木兼善と 岡田鴨里



ロシア船ディアナ号

立木兼善

パネル展

日時 1月28日(土)～2月12日(日) 木曜休館

入場 無料 10:00～16:00 (土・日、随時パネル解説有)

場所 淡路市立 サンシャインホール 1階エントランス 淡路市浦 148-1

江戸時代末期、谷村(現仮屋・谷地区)の村医者の子として生まれた立木兼善は青年期、鎖国の大阪湾・仮屋沖に現れたロシア船に乗り込み交流をはかるほど命知らずの好奇心と冒険心をもっていった。洲本にあった学問所益習館で学び天誅組事件などにもかかわり勤王の志士として頭角を現した。明治政府に徴用されると福島県知事や大規模な一揆や暴動がおこり混乱した明治初期の初代長野県知事や福岡県知事を歴任し見事に收拾させた。外交問題を含む全国的な難題にもあたった横浜裁判所長をはじめ、朝鮮のクーデターに失敗し亡命してきた金玉均を小笠原島に保護するなど国が求める難しい役割を果たした。国会の前身にあたる元老院議官や官幣大社の松尾神社宮司なども務めた。稲田家と徳島藩との分藩独立問題では岩倉具視の命令をうけ調停につとめたが成功せず、庚午事変の引き金となり淡路島が兵庫県に編入される元となった。

又岡田鴨里は淡路市王子出身。勤王運動の元締めの存在であった頼山陽の高弟として山陽を支え、桂小五郎など幕末の尊王運動に大きく影響を与えた。徳島藩の洲本学問所文学教授として優秀な人材を育て徳島藩の参政、学校懸准物頭席に任じられた。『日本外史補』『蜂須賀家記』などの著作があり阿波・淡路第一の学者と言われた。

それら幕末明治に活躍した淡路市出身の二人の人物を貴重な資料で紹介します。
又土曜・日曜には随時パネル解説を実施します

主催 益習の集い 協力 淡路市立サンシャインホール

後援 淡路市、淡路市教育委員会、

資料協力 洲本市立淡路文化史料館・神奈川県立歴史博物館

石濱裕美子早稲田大学教授(岡田鴨里 子孫)・太田剛四国大学教授



岡田鴨里